



NEWS

■第19回遺跡発表会開催予定

2022年1月15日（土）、佐倉市民音楽ホールにて、第19回遺跡発表会を開催予定です。平成27年に調査が行われた匝瑳市多古田低地遺跡の調査成果を発表するほか、講師に山田昌久先生（東京都立大学教授）と海部陽介先生（東京大学総合研究博物館教授）をお招きし、多古田低地遺跡出土の「丸木舟」に関する講演を行っていただきます。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とさせていただきます。

最新の情報は当センター公式HPにてご確認ください。

お知らせ

■令和3年度最新出土考古資料展開催中

当センター考古資料展示室にて、2022年6



月24日（金）まで最新出土考古資料展を開催しています。今回は印西市東海道遺跡（旧石器時代）、成田市水神作遺跡（縄文時代）、印西市株木第2号墳（古墳時代）、佐倉市向山谷津遺跡（第3次）（奈良・平安時代）から出土した資料を展示しています。

*考古資料展示室開室日時

平日9時～17時（入室は16時30分まで）。

（休室日：土・日・祝祭日・年末年始）

※新型コロナウイルス感染症対策のため、現在展示室の見学につきましては電話による事前予約制とさせていただいております。

令和3年度 調査を終了した遺跡 (9月末現在)

- 〈成田市〉十余三稲荷峰西遺跡（第2地点）（旧石器・縄文時代）
- 〈佐倉市〉佐倉城跡（歴博第13次）（近世・近代）
- 〈印西市〉結縁寺山王台遺跡（中世）
- 〈四街道市〉平台遺跡（第2次）（奈良・平安時代）
- 〈八街市〉御成街道跡（近世）
- 〈柏市〉花戸原遺跡（第19・20・21次）（奈良・平安時代・中世・近世）

令和3年度 整理作業を終了した遺跡

- 〈成田市〉十余三稲荷峰西遺跡（第2地点）（旧石器・縄文時代）

- 〈佐倉市〉間野台・古屋敷遺跡C地区（第10次）（古墳時代・中世）他

- 〈四街道市〉鹿渡遺跡（第4次）（旧石器・縄文時代）他

- 〈印西市〉三度山遺跡（第3地点）（縄文時代）他

令和3年度 調査を行っている遺跡 (9月末現在)

- 〈四街道市〉和良比長作（第4次）（縄文時代）

- 〈柏市〉花戸原遺跡（第21・22次）（古墳・奈良・平安時代・中世）

- 〈山武市〉大椎木遺跡（古墳・奈良・平安時代）

令和3年度 整理作業を行っている遺跡

- 〈佐倉市〉佐倉城跡（歴博第13次）（近世・近代）

- 〈印西市〉東海道遺跡（第2地点）（縄文・古墳・奈良・平安時代）他

- 〈柏市〉花戸原遺跡（第10・11・12・13次）（古墳・奈良・平安時代・中世・近世）

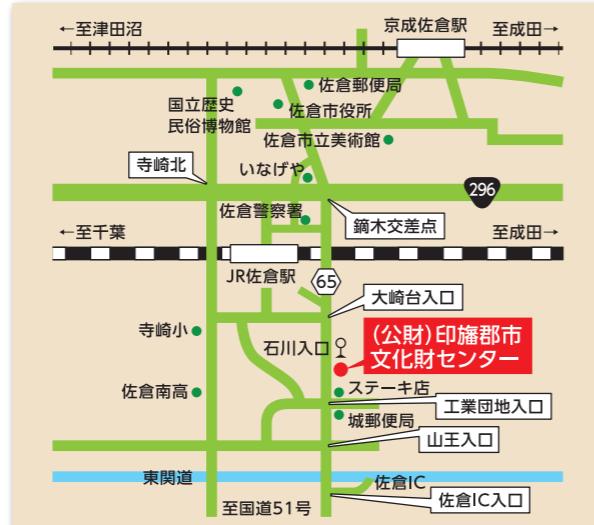
- 中馬場遺跡（第9・10次）（奈良・平安時代）

※発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず事前にご連絡ください。

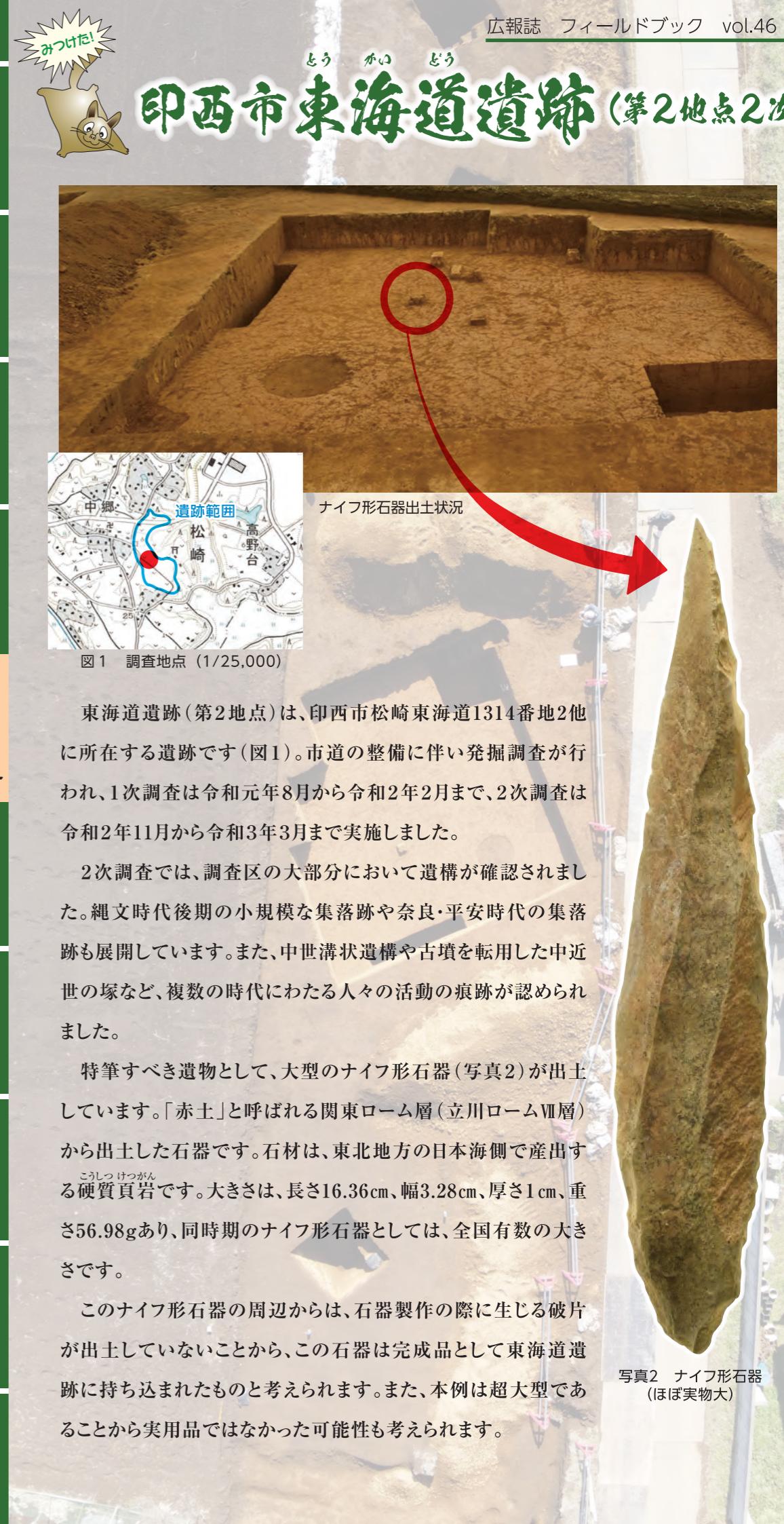
ご案内

ホームページとスマートフォン版サイトをご利用ください。当センターの最新情報を伝えています。下記URLもしくはQRコードより閲覧してください。

PCサイト <http://www.inba.or.jp>
スマホサイト <http://www.inba.or.jp/sp>



■広報誌 フィールドブック vol.46 発行・編集 公益財団法人 印旛都市文化財センター



とう かの どう

印西市東海道遺跡（第2地点2次）



図1 調査地点 (1/25,000)

東海道遺跡（第2地点）は、印西市松崎東海道1314番地2他に所在する遺跡です（図1）。市道の整備に伴い発掘調査が行われ、1次調査は令和元年8月から令和2年2月まで、2次調査は令和2年11月から令和3年3月まで実施しました。

2次調査では、調査区の大部分において遺構が確認されました。縄文時代後期の小規模な集落跡や奈良・平安時代の集落跡も展開しています。また、中世溝状遺構や古墳を転用した中世の塚など、複数の時代にわたる人々の活動の痕跡が認められました。

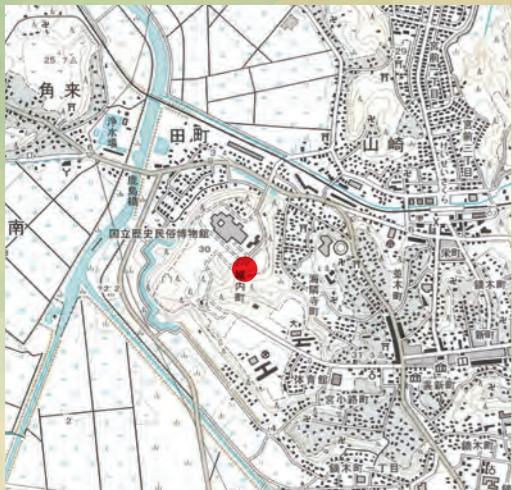
特筆すべき遺物として、大型のナイフ形石器（写真2）が出土しています。「赤土」と呼ばれる関東ローム層（立川ロームVII層）から出土した石器です。石材は、東北地方の日本海側で産する硬質頁岩です。大きさは、長さ16.36cm、幅3.28cm、厚さ1cm、重さ56.98gあり、同時期のナイフ形石器としては、全国有数の大きさです。

このナイフ形石器の周辺からは、石器製作の際に生じる破片が出土していないことから、この石器は完成品として東海道遺跡に持ち込まれたものと考えられます。また、本例は超大型であることから実用品ではなかった可能性も考えられます。



写真2 ナイフ形石器（ほぼ実物大）

佐倉市佐倉城跡(歴博第13次)



佐倉城跡は佐倉市城内町の国立歴史民俗博物館の敷地内に所在する遺跡で、鹿島川と高崎川の合流部右岸の標高30mの台地上に立地しています(図1)。雨水貯留槽の建設工事に先立って、令和3年3月から6月まで調査を実施した結果、近代と近世の遺構面が検出されました。

まず、近代面からは建物の基礎が検出されました(写真1)。昭和期の建物配置図からみて、佐倉連隊の被服倉庫と推定されます。今回検出された建物は長軸25m以上、短軸12m以上の大型のものであることがわかります。

また、基礎に使用された石の形は、他所から持ち込まれたとみられる割石や近世江戸屋敷の礎石に使用されたとみられる丸石など多種多様でした。なかには、「妖怪石」と浅く彫られている石(図2)もみられ、もとは別の用途で使用されていた物が転用されたものと推定されます。

基礎の下からは、全長170cmを超える木杭が複数検出されました(写真3)。これらの木杭は、基礎の真下に位置していることから、建物を建てる際に使用されたものとみられます。特に、大きな丸石の真下に3本ずつ杭が配置されていたことから、重い基礎を支えるために木杭を打設していたものと推定されます(図3)。

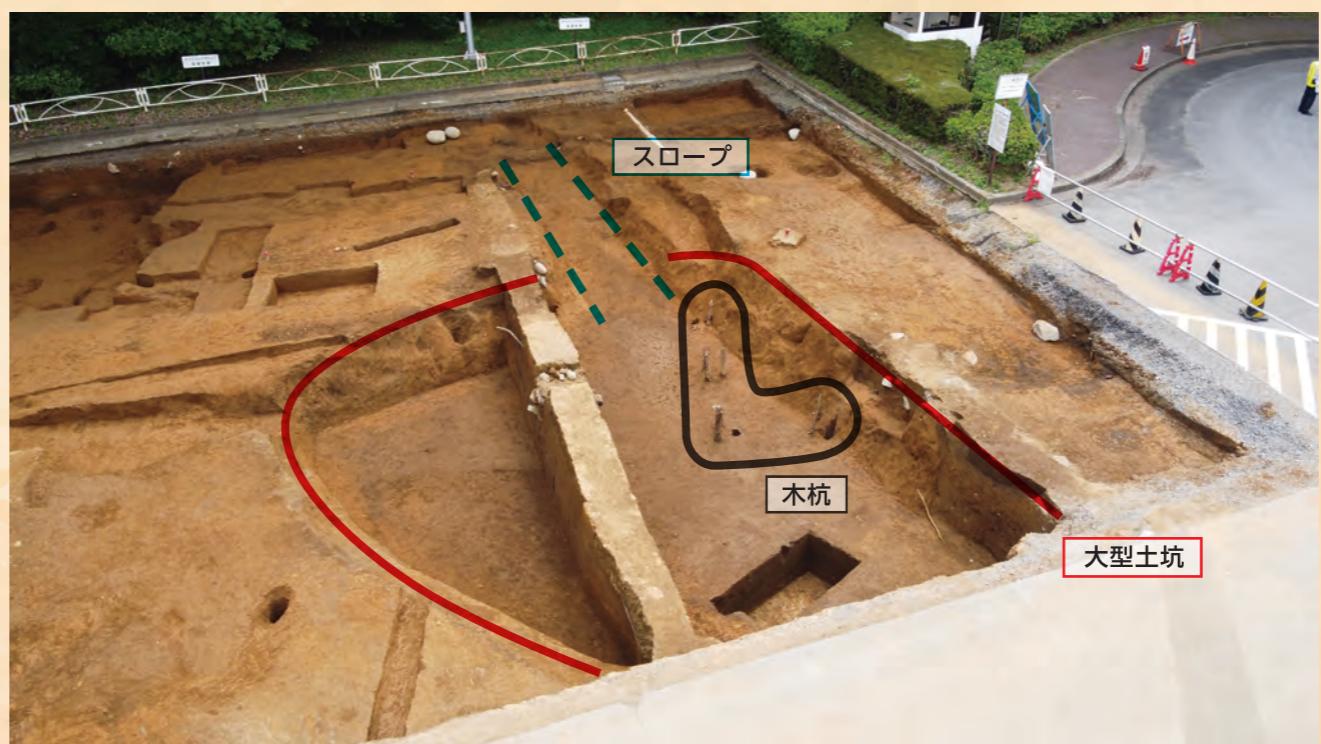


写真2 近世面 大型土坑 (北東から)

次に、近世面からは大型の土坑が検出されました(写真2)。深さは1m以上、幅は長い部分が10m以上にもなり、南側はスロープ状になっています。遺構の性格は不明ですが、覆土からは中国産や国産の磁器、かわらけの他、金箔や鬼瓦(写真4)など近世の遺物が多数出土したことから、近世の佐倉城に関連する遺構とみられます。

今回の調査では近代建物の基礎と近世土坑の一部が検出されました。周辺にも同様の遺構が存在するものと推定されます。

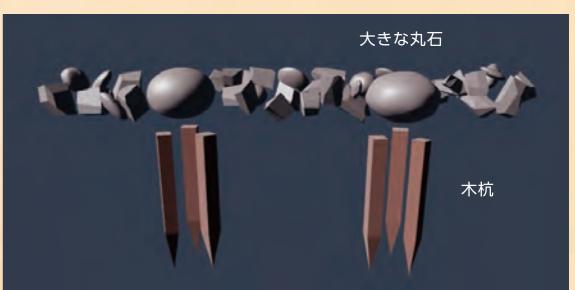


図3 木杭と基礎の想定復元図

